

# イエス・キリストの啓示 - 第十一

## 獣の像

Jeff Pippenger

2023-11-05

また、天に別のしるしが現れた。見よ、大きな赤い龍がいた。それは七つの頭と十本の角を持ち、その頭には七つの冠があった。その尾は天の星の三分の一を引き寄せて地に投げ落とした。そして龍は、出産しようとしている女の前に立ち、子が生まれ次第それを食いつくそうとした。女は男の子を産んだ。その子は鉄の杖で諸国の民を治めるべき者であった。子は神のもと、その御座へと引き上げられた。女は荒野へ逃げた。そこには神によって備えられた場所があり、彼女はそこで千二百六十日のあいだ養われた。天では戦いが起こった。ミカエルとその天使たちが龍に戦いを挑み、龍もまた自分の天使たちとともに戦った。しかし彼らは勝てず、天にはもはや彼らの居場所は見いだされなかった。こうしてその大いなる龍、すなわち全世界を惑わすあの古い蛇、悪魔とかサタンと呼ばれる者は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の天使たちも彼とともに投げ落とされた。そのとき、天で大きな声がこう言うのを聞いた。「今や、救いと力と、我らの神の御国と、そのキリストの權威が来た。なぜなら、我らの兄弟たちを昼も夜も我らの神の前で訴えていた告発者が投げ落とされたからである。」彼らは小羊の血と自分たちの証しという言葉によって彼に勝利し、死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。それゆえ、天よ、またそこに住む者たちよ、喜べ。しかし地と海に住む者たちには災いだ。悪魔は激しい怒りを抱いてあなたがたのところへ下って来た。自分の時がわずかであることを知っているからである。龍は自分が地に投げ落とされたのを見ると、男の子を産んだ女を迫害した。しかし、女には大鷲の二つの翼が与えられ、彼女は蛇の顔をのがれて荒野の自分の場所へ飛んで行き、そこで一時と二時と半時のあいだ養われた。蛇は女を洪水に押し流そうとして、その口から洪水のような水を女のあとに吐き出した。すると地は女を助け、地は口を開いて、龍がその口から吐き出した洪水を飲み込んだ。そこで龍は女に激しく怒り、神の戒めを守り、イエス・キリストの証しを持っている彼女の子孫の残りの者たちと戦おうと出て行った。黙示録 12:1-17

キリストとサタンの大いなる争いにおける最初の戦いは、ルシファールの反逆によって第三の天で始まり、その最初の戦いは第一の天における最後の戦いを象徴している。さらに戦いは続く。千年期の終わりにサタンはしばらくの間解き放たれ、エルサレムに攻撃を仕掛けるが、その戦いに勝利の可能性はない。初めに第三の天で起こった戦いは、終わりに第一の天で起こる戦いを表しており、その戦いは猶予が与えられている間に行われた。

子を身ごもっている「女」は、歴史を通じて神の教会を表しており、キリストの時代には男の子であるイエスを産もうとしていた。終わりの時代には、彼女は双子を産む。日曜法の直前には黙示録7章の十四万四千人を産み、日曜法のときには黙示録7章の大群衆を産み出す産みの苦しみを始める。彼女の双子は一卵性の双子ではないが、双子であり、長子はエリヤ、弟はモーセである。

霊的イスラエルの初めに、異教ローマの竜は男の子であるイエスを食い尽くそうと待ち構えており、現代ローマの竜は今や、十四万四千の「男の子」を食い尽くそうとして待っている。異教ローマが初代キリスト教会を迫害したように、現代ローマも日曜法の危機の際にその迫害を繰り返すだろう。初代キリスト教会において、女は一千二百六十年という文字どおりの期間、荒野へ逃れ、日曜法の危機における迫害は黙示録十三章五節の四十二か月によって象徴されている。荒野において、神の民には彼らのために備えられた場所があり、そこで彼らは食物を与えられ養われる。

ヨハネの黙示録8章13節では、最後の三つのラッパが三つの災いとして示されている。黙示録におけるこれらの災いは、日曜法を制定する諸権力に対するイスラムによるラッパの裁きを表している。第12章で描かれている戦いにおいては、「地と海に住む者たちに災いあれ！悪魔は大いなる怒りを抱き、自分の時が短いことを知って、あなたがたのところに下って来たからである」と述べられるとき、イスラムの役割が示されている。背教した夫アハブを通してイゼベルが行う迫害は、「地の獣」と「海の獣」に向けられている。

黙示録18章に登場する力強い天使の運動は、あらゆる改革運動と同様に、審判へと至りそれを含む四つの主要な道標を持っている。第一の天使の運動においては、その四つの道標とは、1840年8月11日、1843年春の第一次失望、1844年8月12日から17日にかけての「真夜中の叫び」のメッセージの到来、そして1844年10月22日の審判の開始であった。これら四つの道標はいずれも、全体を貫く共通の主題として「時」を備えていた。1840年8月11日は、黙示録9章15節の時の預言の成就であった。1843年の第一次失望は、時の予測の失敗を意味していた。「真夜中の叫び」のメッセージは、先に失敗した時の予測の訂正であり、1844年10月22日は「真夜中の叫び」のメッセージで予告された時の成就であった。

第三の天使の運動にも同じ四つの道標があり、それらはすべての改革の路線に存在している。さらに、あらゆる改革の路線におけるその四つの道標と同様に、それぞれの道標は同じ預言的テーマを有している。第三の災いのイスラムは、十四万四千人の運動における四つの道標の主題である。2001年9月11日、第三の災いのイスラムは解き放たれ、その後抑制された。2020年7月18日の失敗した預言は、テネシー州ナッシュビルへのイスラムの攻撃を指し示し、第三の災いのイスラムを表していた。黙示録11章の通りにある死んだ干からびた骨を目覚めさせるメッセージは、真夜中の叫びのメッセージの完全かつ最終的成就であり、（時間の要素を伴わない）ナッシュビルの預言の修正を表している。それは第四の道標、すなわち日曜法において成就する。そこで、間もなく施行される日曜法の強制のゆえに、第三の災いのイスラムがアメリカ合衆国を攻撃することになる。

この真理が認められ、第三の天使の大いなる運動が差し迫る審判の警告であるという事実と相まって、第三の災いによって表されるイスラムの審判は、「地」と「海」にもたらされる「わざわざ」として容易に理解できる。

生者の審判は2001年9月11日に始まり、その時から、間もなく到来する日曜法に至るまで、獣の像の形成という試練が米国で行われる。日曜法からミカエルが立ち上がり恩恵期間が閉ざされる時まで、その後は米国以外の世界も獣の像の形成によって試されることになる。米国のセブンスデー・アドベンチストが試されているのか、日曜法の後に全世界が試されているのかにかかわらず、その試練は私たちの永遠の運命が決定される試練と定

義されている。また、それは日曜法において恩恵期間が閉ざされる前に、私たちが通過しなければならない試練でもある。まず米国で、次いで世界で、獣の像の試練があるというこの預言的現象を正しく理解することは不可欠である。

「宗教の自由の地であるアメリカが、良心に強制を加え、偽りの安息日を尊ぶことを人々に強いる点で教皇制と手を結ぶようになると、地球上のあらゆる国の民はその手本に倣うよう導かれるであろう。」 Testimonies, 第6巻、18.

その象徴が理解されると、連続しているが同一の「獣の像」の二つの試練を扱っているヨハネの黙示録13章の箇所は、容易に認識できる。これはさまざまな理由で重要である。その一つは、第三の天における最初の戦いでルシファーが用いた歪められた情報伝達が、第一の天における最後の戦いでサタンの歪められた情報伝達が再びどのように現れるかを示しているからである。

日曜令に始まる第一の天の戦いは、全世界に対する獣の像の試練期間の間に遂行される。2001年9月11日以来、アメリカ合衆国における獣の像の試練期間が進行してきた。これら二つの試練期間が、まず米国、次いで世界へと順次進むものだと認識するとき、私たちは、黙示録第十二章の戦いに表されている真理を、2001年から日曜令に至るまでの歴史に当てはめることができる。例えば、催眠術と定義されるルシファーの墮落したコミュニケーションは、黙示録第十二章の第一の天の戦いの間、竜の権勢によって現代的な形で用いられるだろう。その歴史において竜が用いる催眠術は、イゼベルが異端と断じた者たちを殺害することを目的としている。

2001年から日曜法に至るまでの歴史において、二人の証人はソドムとエジプトの街路で殺害された。黙示録11章の最初の成就において、ソドムとエジプトによって表される国はフランスであった。フランスは二つの権力から成る預言的な国であり、それはメド・ペルシア帝国、分裂王国期の古代イスラエル、そしてユダとベニヤミンによって表されるユダの二つの部族がそうであったのと同様である。二本の角を持つすべての国は、象徴的に、二本の角を持つアメリカ合衆国を表している。

ソドムの町とエジプトという国は、共和主義（エジプト）とプロテスタント主義（ソドム）という二本の角を表している。2020年に二本の角が打ち倒された。共和主義の角とプロテスタント主義の角である。グローバリストの竜の勢力がワールドワイドウェブという媒体を通じて用いる催眠術は、その後、やがて来る第一の天の戦争で用いられるのと同じやり方で行使された。ワールドワイドウェブが生み出すメッセージを制御することによって、2020年の選挙は、グローバリズムの理念に合致する結果が出るよう科学的に操作された。これは、「獣の像」の試練がまずアメリカ合衆国で、そしてその後に世界で成し遂げられることを理解しておく必要があるということの、単なる一例にすぎない。

主は、猶予期間が終わる前に獣の像が形成されることを、私にはっきりと示してくださった。というのも、それが神の民に対する大いなる試練となり、それによって彼らの永遠の運命が決定されるからである。あなたの立場は矛盾だらけの寄せ集めであり、欺かれる者はごくわずかだろう。

黙示録13章において、この主題は明確に示されている。[黙示録13章11-17節、引用]

これは、神の民が印を受ける前に必ず通らなければならない試練である。神の律法を守り、偽りの安息日を受け入れることを拒むことによって神への忠誠を証明したすべての者は、主なる神エホバの旗印のもとに列し、生ける神の印を受けるであろう。天来の真理を放棄して日曜日の安息日を受け入れる者は、獣の刻印を受けるであろう。Manuscript Releases 第15巻、15。

日曜法が施行されるとき、セブンスデー・アドベンチストにとっての恵みの時は閉じる。アメリカ合衆国の例に倣う国々でも、アメリカ合衆国と同様に恵みの時が閉じる。

「諸外国はアメリカ合衆国の手本に倣うだろう。たとえ米国が先頭に立つとしても、同じ危機が世界の至る所で私たちの民に及ぶであろう。」『証言』第6巻、395頁。

最後の動きはどれも素早い。

「悪の勢力は力を結集し、結束を固めつつある。彼らは最後の大きいなる危機に備えて力を強めている。私たちの世界では間もなく大きな変化が起こり、最後の動きは急速なものとなるだろう。」『証言』第9巻、11。

獣の像の試練を理解するには、一定の技術的な預言の適用が求められる。まず、獣の刻印と獣の像は二つの異なる象徴である。

「獣の像」は、プロテスタント諸教会が自らの教義を強制するために国家権力の援助を求めるときに形成される、背教的プロテスタンティズムの一形態を表している。「獣の刻印」については、なお定義されていない。『大論争』445ページ。

獣の刻印は日曜日の遵守であり、獣の像は、自らの宗教教義を強制するために国家権力を用いる教会である。

プロテスタント諸教会による日曜日遵守の強制は、教皇権-すなわち獣-の礼拝の強制である。第四条の戒めの要求を理解しながら、真の安息日の代わりに偽りの安息日を守ることを選ぶ者たちは、それによって、それを唯一命じている権力に服従と敬意を示しているのである。ところが、世俗の権力によって宗教的義務を強制するというその行為自体において、教会は自ら獣の像を形づくることになる。ゆえに、アメリカ合衆国における日曜日遵守の強制は、獣とその像の礼拝の強制となるであろう。『大争闘』448、449頁。

獣の像は、教会と国家の結合を表しており、その関係の主導権を教会が握っている。イゼベルがアハブを支配したのと同様に、ヘロディアはヘロデを支配した。獣の刻印は日曜遵守である。獣の像は、ある期間をかけて発展していく。獣の刻印は、ある時点を表す。獣の像は漸進的に発達するが、国家に宗教的教義を法制化させる力を持つに至ったときのみ、完全に成熟する。その試練は、その像の「形成」と結びついている。

しかし、「獣への像」とは何か。それはどのように形づくられるのか。像は二本の角を持つ獣によって作られ、獣への像である。また「獣の像」とも呼ばれる。したがって、その像がどのようなものか、またそれがどのように形づくられるのかを知るためには、獣そのもの-すなわち教皇制-の特性を研究しなければならない。

初代教会が福音の単純さから離れ、異教の儀式や慣習を受け入れて墮落したとき、教会は神の霊と力を失った。そして人々の良心を支配するために、世俗の権力の支持を求めた。その結果として現れたのが教皇制であり、教会は国家の権力を支配し、それを自らの目的、特に「異端」を処罰するために用いた。合衆国が獣の像を形成するためには、宗教勢力が世俗政府を支配し、国家の権威が教会によっても自らの目的を達成するために用いられるようにしなければならない。The Great Controversy, 443.

獣の像と獣の刻印の区別は、かなり伝統的なアドベンチストの理解である。アドベンチズムがこの主題について概して道を見失うのは、黙示録13章においてである。彼らは、日曜法の後にアメリカ合衆国が世界に対し獣の像を立てることを強いるという活動と、アメリカ合衆国内における獣の像の樹立とを、なぜか混同している。それらは預言上、二つの異なる時期である。

キリストは一週の間、多くの者と契約を堅く結ぶために来られ、週の半ばに十字架にかけられた。したがって、その一週は、獣の像が形成される二つの時期を象徴している。キリストの一週は同じ長さの二つの時期に分けられており、キリストの像を表している。終わりの時代の二つの試練の時期は、反キリストの像を表している。

最初の一千二百六十日の期間には、キリストはご自身の証しをされ、その後、十字架で死なれた。次いで、同じ一千二百六十日の期間があり、その間は弟子たちが証しをし、ステパノの石打ちの時にミカエルが立つまで続いた。十字架は日曜法を予表する。獣の像の形成に関連する二つの試練の期間は、第一の期間がキリストに予表されている十四万四千人に関わるものであることを示し、その期間は、十字架によって予表されている日曜法の時に終わる。キリストの時代における弟子たちの働きによって表されていた最後の同一の試練の期間は、大群衆を対象としており、ステパノの石打ちの時ではなく、ダニエル12章1節にある人類の恩恵期間の終わり、すなわちミカエルが立つときに終わる。

黙示録13章11節以降の出来事の実際の順序が見えていない人がいるが、しばしばその理由は、アメリカ合衆国が竜のようにものを言うとき、それがアメリカ合衆国における獣の像の完全な形成を表しているのだという事実を認めようとしない、意図的とも思える態度にある。アメリカ合衆国が日曜法を制定するには、その前に、アメリカ合衆国における獣の像が形成されていなければならない。この点が理解できないなら、先に引用した『各時代の争闘』のいくつかの箇所をもう一度読んでください。

十三章十一節でアメリカ合衆国が竜のように語るとき、それは、アメリカ合衆国の背教した諸教会の指示のもとに、立法および司法当局が日曜法を制定する行為を象徴している。日曜法の布告はアメリカ合衆国の口から発せられる。

「私は、二つの角の獣が竜の口を持っており、その力は頭にあり、その口から布告が出されることを見た。」スバルディングとマガン、1。

アドベンチストが、二本の角を持つ地の獣が竜のようにものを言うとき、それは単に米国の「日曜法」を指し示すだけでなく、ローマ教皇制の海の獣の像が完全に形成されたことをも示している、という事実をなかなか認めようとしないことには、いつも驚かされる。米国が日曜法を可決するためには、まず教会と国家の結合が十分に形成されてい

なければならない。米国の背教した諸教会が、月曜日に寄り集まり、火曜日に議会へ行って、水曜日までに日曜立法を可決してほしいと議会に伝える、というようなことが起こるわけではない。教会と国家のあいだで起こる結合の過程は、ダニエル書3章の金の像の「形成」と同様に、獣の像の「形成」として表されており、それを造り上げるには時間がかかるのである。獣の像とは、暗黒時代に教皇制が何百万もの殉教者を殺害するために用いた制度であり、日曜法が施行されるのに必要な社会環境と法的先例を作り出すには、社会的・政治的・宗教的・経済的な発展が必要となる。そうした発展こそが、「そこで私たちの永遠の運命が決められる」獣の像の試練を表しており、またそれは「私たちが封印される前に」通過しなければならない試練をも表している。

主は私に、恩恵期間が閉じられる前に獣の像が形作られることを、はっきりと示された。というのは、それが神の民にとっての大なる試練となり、そのことによって彼らの永遠の運命が決められるからである。……これは、神の民が封印される前に必ず受けなければならない試練である。Manuscript Releases, 第15巻, 15頁。

日曜法は真夜中の危機であり、そこで十人の乙女のたとえが最終的かつ完全に成就する。その真夜中の危機において、私たちが賢いフィラデルフィアの乙女なのか、愚かなラオデキアの乙女なのかが明らかにされる。愚かな者は獣の刻印を受け、賢い者は神の印を受ける。これまでにセブンスデー・アドベンチスト教会に加入した者は皆、会員になる前に教理の真理の一覧に同意しており、ゆえに、すべてのセブンスデー・アドベンチストには安息日の真理の光が示されている。

もし真理の光があなたに示され、第四の戒めの安息日が明らかにされ、また日曜日遵守には神の御言葉に何の根拠もないことが示されているのに、なおも偽りの安息日に固執し、神が「わが聖なる日」と呼ばれる安息日を聖別することを拒むなら、あなたは獣の印を受ける。これはいつ起こるのか。－あなたが、日曜日に労働をやめて神を礼拝するよう命じる布告に従うときである。聖書のどこにも日曜日が普通の労働日以外のものであることを示す言葉は一つもないと知りながら、あなたは獣の印を受けることに同意し、神の印を拒むのである。もし私たちがこの印を額や手に受けるなら、不従順な者に宣告された裁きが必ず私たちの上を下る。しかし、生ける神の印は、良心に従って主の安息日を守る者たちに押される。Review and Herald, 1911年4月27日。

アメリカ合衆国における獣の像の形成は、予言的には2001年9月11日に始まった。この事実を裏づける予言的な証言がいくつもある。その時から、間もなく到来する日曜法に至るまで、セブンスデー・アドベンチストは、獣の像の試験に合格するか不合格になるかによって、自らの永遠の運命を決定している。私は、獣の像が試験であること自体を知っているセブンスデー・アドベンチストはごくわずかだと主張する。いたとしてもごく少数しか、それがどのように試験となり得るのかを知らず、さらに重要なことに、試験に合格するために何が求められているのかを知らない。私たちは、すでに持っている光だけでなく、もし知識の増加を理解することに自ら努めていたなら持ち得たはずの光によっても裁かれる。ゆえに、ラオデキアの盲目こそ、六千年の罪の歴史の中で最も大きな盲目である。

わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたが知識を退けたので、わたしもあなたを退け、あなたをわたしの祭司とはしない。あなたが自分の神の律法を忘れたの

で、わたしもあなたの子らを忘れる。ホセア書4章6節。

獣の像の形成に関する試験は、間もなく制定される日曜法で終わる。そして、もし私たちがその試験に合格していなければ、油を得ることを拒んだ他の愚かなラオディキヤの乙女たちすべてと共に、獣の刻印を受けることになる。私はここで、獣の像の試験が2001年9月11日に始まり、日曜法で終わると私が理解している理由を論じるつもりはない。私は単に、日曜法を可決した後のアメリカ合衆国の役割を、黙示録十三章に示されているとおりに理解するために必要な予言的論理を指摘しているにすぎない。十一節では、それは竜のように語り、その時点以降は「he」という語を追うことが重要である。そのときアメリカ合衆国が世界に獣の像を立てるよう強いているのは、アメリカ合衆国内の獣の像のことではない。というのも、それはすでに過去のことだからである。

そして私は、地から上ってくる別の獣を見た。それは小羊のような二本の角を持ち、竜のように語った。彼は第一の獣の前で、そのすべての権威を行使し、致命的な傷が癒やされたその第一の獣を、地とそこに住む者たちに拝ませた。彼は大いなるしるしを行い、人々の見ている前で、天から地上へ火を降らせた。また彼は、獣の前で行うことを許されたそれらの奇跡によって地に住む者たちを惑わし、剣で傷を負ってなお生きたその獣の像を造るようと、地に住む者たちに言った。さらに彼には、獣の像に息を与える力が与えられ、獣の像が語ることができ、また獣の像を拝まない者はみな殺されるようにさせた。彼はまた、小さな者にも大きな者にも、富める者にも貧しい者にも、自由な者にも奴隷にも、皆にその右の手か額に刻印を受けさせた。そして、その刻印、すなわち獣の名、またはその名の数を持っていない者は、だれも買うことも売ることもしないようにした。ヨハネの黙示録 13章11-17節。

その七節の中で、“he” という語は八回現れます。“he” という語が用いられるたびに、それは元の “he”-すなわちアメリカ合衆国における日曜法の時に「竜のように語った」者-を指しています。アメリカ合衆国が竜のように語ったとき、合衆国内のアドベンチストたちが合格したり不合格になったりした「獣の像」の試験は、その後、世界の他国のアドベンチストたちにも、そしてなおバビロンにいる神のほかの子どもたちにも、繰り返されます。黙示録十三章におけるアメリカ合衆国についての考察は次の記事で続けますが、なぜ私たちが今この真理を考察しているのかを思い起こしていただきたいと思います。

第三の天においてルシファーから始まった戦いは、日曜法の時に第一の天で始まる戦いを象徴している。竜の墮落した伝達は、両方の戦いにおいて表されている。サタンの墮落した伝達の現代的な現れは、まもなく来る日曜法後の歴史において地球全体が陥る催眠状態を表している。その惑わしは、いわゆる「情報スーパーハイウェイ」をワールドワイドウェブが支配することによってもたらされる。その「情報スーパーハイウェイ」のさまざまな経路は、社会、経済、宗教、いわゆる科学、娯楽、そしてとりわけニュース・メディアの経路である。

「情報スーパーハイウェイ」が、サタンの催眠的コミュニケーション、ならびに第三の天における天使たちの戦いでサタンが用いた巧妙な催眠術の現代的な現れであるという真理が認識されるなら、私たちは、「日曜法」の後に起こる世界に対する「最後の」獣の像の試験の一要素が「情報スーパーハイウェイ」であることを確認できる。そうなれ

ば、アメリカ合衆国に対する「最初の」獣の像の試練も、最後のものと同じ墮落したサタンのコミュニケーションを備えていなければならないことを認識するのは容易になる。「日曜法」から恵みの時の終わりに至るまで、「情報スーパーハイウェイ」を墮落させるサタンの働きの証言は、地の獣における共和主義の二本の角と真のプロテスタンティズムの残りの民の殺害が2020年にどのように成し遂げられたのかを示す証拠を提供する。それは、「黙示録」11章でヨハネが「街路」と呼ぶ「情報スーパーハイウェイ」によって成し遂げられた。

これらの預言的事実の封印が解かれることは、獣の像の試練を通過しようとする者が理解しなければならない事柄の一部であり、その獣の像は、女預言者が明確に見たように、猶予期間が閉じる前に、また十四万四千人が封印される前に形づくられる。

布告が出され、印が捺されるとき、彼らの品性は永遠に清く、汚れなきままに保たれる。証言 第5巻 216ページ